

記事紹介

二面
 △視点▽我々にと
 つて有利な71年
 配転阻止を自主闘
 争で勝利ⅡA大学
 職員、代々が支配
 する執行部で
 三面
 官を圧迫する労働
 者Ⅲ全気象福岡分
 会
 四面
 自衛隊解体の必然
 性Ⅳ小西三哲の間
 題提起にかえて
 (1)

新左翼

1971年

1月5日

第76号

月3回5、15、25日発行

1部30円

1ヵ月100円 半年500円

1ヵ年1000円 千共

発行所

新左翼社

大阪市大淀区本庄川崎町

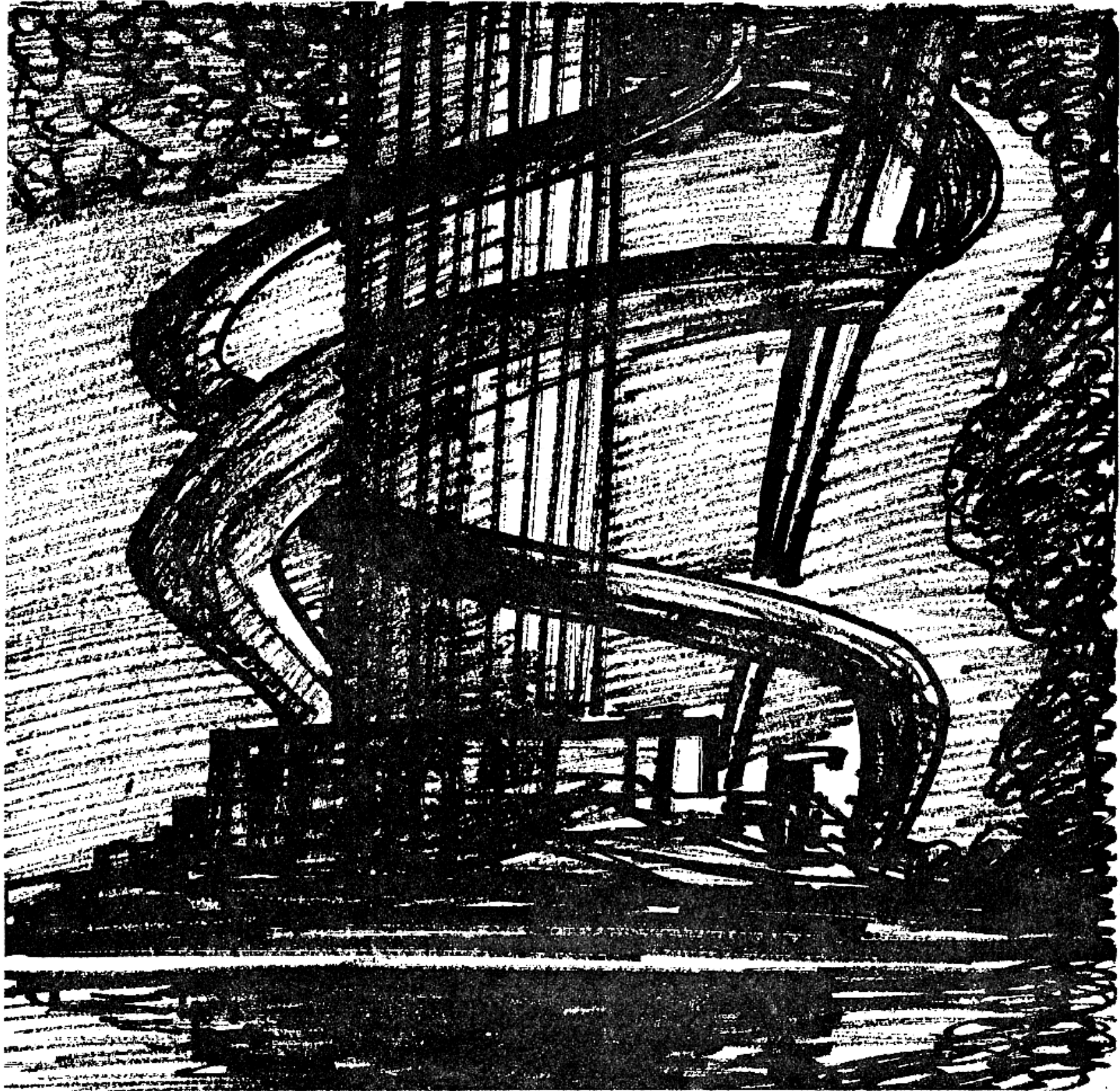
2-10 トミヤビル

電話 (371) 5304

振替口座 大阪 88555

昭和43年12月12日

才三種郵便物可



「新左翼」の購読、読者紹介、あなたの意見を

月3回発行 1月 100円, 半年 500円, 1年 1000円 千共

住所 氏名

住所 氏名

住所 氏名

△意見▽

アラブ・パレスチナ詩集

虹の眼

京都市右京区安寺塔の下 さくら荘3号東庄平	定価 20円	送料 25円
--------------------------	--------	--------

対市民ヒラまきを行なったこの成果もあつたが、それにしても、いかに大衆の「三里塚闘争」への関心と三里塚の長期に亘る農民の不撓不屈の闘いから何かを学びとろうとする「反権力闘争」が如何に広範に広まっていたかを感ぜられた。一〇・二の「入管法新法決集会」には我々も反戦委員会に積極的に参加した。そして一月から二月初にかけて、今度は学内へ、同じ「三里塚闘争記録映画『第三次衝突阻止運動』」の自主上映運動行なつた。今度は、学内の各構成員有志で上映委を組んだが、よりも広い実行委を組むこととなり出来た。情宣エラをやり広げると同時にそれぞれが上映費用のコンバを集めて回り、その時に、二人の人達一人一人に三里塚闘争と同時に、二月五日の三里塚現地での「特種資料展覧会」に、われわれ職員有志仲間からも代表を連ねて運んだ。私達仲間は、昨年一年間の職場での闘いを中心に仲間運動を踏まえ、今年は更に、仲間同志の討論を深めつつ、仲間を増やし、更に有効な運動を進めていくことをしている。

私は、この一年間の闘争を次の（三面へつづく）

全気象
福岡会分
軍事気象との闘争激化

今年の春は、予報、調査の「合 理化」反対、人べらし反対闘争で して闘争を堅持した。	信宣局は、予報班のたたかいの もりあがりを見て、村岡支部委員 らし配転計画に、常に「配転牽 引」を最大限に利用してきた。村	議、課長交渉を重ね、セツケン闘 争、ステッカー闘争を取り組み、 長の予報課への「希望配転」をか	争、調査の「合 理化」反対、人 べらし反対闘争 でして闘争を堅 持した。
なえることにより、闘争の発展に 水をかけ、一連の人べらし配転計 画を押し進めた。信宣局は人べら	し配転計画に、常に「配転牽引」 を最大限に利用してきた。村	争、調査の「合 理化」反対、人 べらし反対闘争 でして闘争を堅 持した。	なえることにより、闘争の発展に 水をかけ、一連の人べらし配転計 画を押し進めた。信宣局は人べら

(2)

針でろーあを直す

あることを知った。以外からは学べない。私の小さな日の賃金は、どうもこの粉一斤の私の持っていた毛主席に対する経験から、毛主席は偉大だとその個人崇拜という疑問は、私が日本時思った。ましてや、食う物も着に一度しか仕事がありません。仕で行なった労働運動と、私が失敗する物もなく搾取にあえていた中、事中事故で死ぬ人は絶えませんでした。点、更に解決できなかった点、国の七億の人民にとって毛主席はした。ある時私の手にトゲがささ

ここで必須なのが人民解放軍のも、階級大衆同志には、一回たりに対して、中国共産党も失敗し、すばらしい人に違いない。特に天つで墮れた時、資本家は私を解雇してゐたが、私が毛沢東思想と誤つた針を刺してはいけな犠牲をはらいそして毛沢東の指導で成功したことを知ってから解けんの話しから、毛主席に対する人を売って医者へ行きました。その後私は日本帝國主義者に森山へ韓を理解するには、人民解放軍がどいという言葉である。

一度たりとも憎悪性からはずれた。労働運動の説明を聞いている民の敬愛の深さがわかつた。

見ればよいと受づいたのは、かなた言葉を私は聞いたことがない。時、何ともいえない親近感がわいて「解放前私の家族は七人で制的につれてゆかれ、父の骨と再会しました。一緒に居た中国人労働時間がたつてからだった。広州長沙・韶山で中国共産党の歴史をきた。そして毛沢東が、左・右のた。私は働いていましたが、当時一才で、一ヶ月の給料は「五キ」

この学校に行った時、ろつあ学んだ時、毛沢東思想は、何十年日和見路線と闘い、労働戦線を確

東北支部が、福岡回教削減阻止、人べらし阻止のために、配転拒否闘争を組織しているのと比較すれば、西部支部執行部の闘争放棄の姿勢がはつきりする。この村岡支部委員長の『希望配転』によって、福岡分会執行部はすつかり混乱し、大事な三月期に分益集会も開けなくなつたことを想起してほしい。

できた。今年の五月、自光さんが突然なくなり、人殺し「合理化」の実態と、これを機に人べらしをやうとした官局の卑劣さに怒りが爆発し、ついに補充の約束をさせた。しかし、官は今になつても「配転がうまくいかない」などといつて補充していない。この通信班の補充をきちとすることは非常に重要である。必ず補充させる

西部支部執行部は全く放置したままである。(村岡支部委員長と増田善信本部委員長は十二月にオルクをしているが、オルク報告には勤務制改悪のことは一言もふれてない) 鹿児島分会調査班は、八月一日に一前割減された。福岡分会調査班では三月には三名もの人べらしを許してしまつた。

敢然と闘いぬけば、必ず勝利

各班の果敢な闘い

予報班は五月に一名へらされ、たが、あとの一名は守っている。官当局は七月に、予報系列化による勤務制改善(夜勤を二名へらす)攻撃をかけ予報の人べらをとまらせ、四〇代、五〇代の人た強行しようとした。予報班は、課長交渉、腕章闘争、ステッカー闘

下関では、福岡の予報と同じ時に、八月一日から勤務制改善を強行されている。今までは、若い人が二夜勤していた。今度はその一人を、予報官、技術専門官を三に三時の間調、プロット(何年

まて闘いぬう。

をのぼしているように、官は常に、なんとかわれわれの勝利をくつがえそうとしてくる。闘わなければ、鹿児島、下関、調査班のうにいっぺんにおきかれ、さらに激しい労働強化へ追いこまれて

できることを、この通信、予報班の闘いは教えている。通信の補充

争により闘いを急速にもりあげ、FAX受画、早期予報を一人や業務命令で勤務制改善を強行しようせむという労働強化をおしつけ

争 取 更 大

热烈欢迎日本关西工人学习参观团

参観団は北京市の郊外に駐屯する人民解放軍を訪問した。

私達が全ての場所へ聞くのは、
「権力をプロレタリアが奪取しなければならぬ」という言葉と、
「鉄面から政權が生まれる」という言葉だった。
労働者が、身体で知り、理論を持ち、思想を持った。すばらしいことだと思ふ。労働者は私達の質問に、政治の観点から答えてくれる。それを可能ならしめたのはおそらく人民解放軍であらう。彼らは、全く大衆の中にとけ込んでいる政治工作員である。大衆と共に労働し、誠心誠意人民に奉仕している。解放軍は非常に多い。彼らは最も毛主席に忠実な人達である。人民解放軍のすばらしさは、百発百中の腕よりも、立派な階級教育者・政治工作員であることである。誤解なきように言つが、世界を指導するのは軍ではなく、あくまでプロレタリアートである。

職場の主導権
握る労働者

福岡分会の各班の闘いを見れば、官側の「合理化」攻撃を阻止、官側を圧倒しているのは我々労働者の側である。これは通信、予報班の闘いに支えられ、官らしく、勤務制の悪を阻止し、退勤要求をはねかえし、通信では尤を約束させていることにはつとめられていた。福岡分会において、官側はやすやすとは権を奪いえず、職場の主導権は労働者の側が握っている。だから、官側は野球大会、バレー、朗読、俳句などに大いに人を入れ労働者を官側の陣営に引入れようと心算なのである。

したが、本部、西部支部執行部は、全く官側のペースにはまり、側を大いに喜ばせ、組合員の利益を真切っている。支部執行部は、

職場内外の闘争をよりあげるべき任務を放棄し、ただ五名、時には四名で出かけて行って団体交渉をしている。こういう団体交渉は全く無力であり、官側から甘く見られ利用されるだけである。行管や第二次「合理化」について、何ら情直せず、官の思想攻撃、綱利は専ら攻撃の前に組合員をさらし、主体的に闘って、反動当局と対決し、攻撃を粉砕してきた。

行管にみられるように第二次

(二面からつづき)

一、A君の強制配転反対闘争を一大契機として、われわれ行管有志仲間の結果、団結がしっかりと詰まったように、闘つ労働者の結果、団結は、具体的な配転と、真向からの闘いで出来るものであるといふこと

一、その際の結果の根源は、

主帝と共産黨に指導された解放軍が私達を解放してくれたのです。私は毛主席を心から敬慕します。毛沢東思想で武装し、一生毛主席

しく変化に富んだ年を送った。六日の対府国交はこれまで一月が順を辿つてみても宝ホテルの火事、死者もでなし、府に突込み、すわり込み、デモでコッパ役人をするえ上らせ、失業保険適用という労働史上始まつて以来のみやけを持ち帰った。来年早々は認定闘争を確立し、本当に矢保を庵達のものにする。

今年もあとわずか。まだ何がひたすかわらんが、来年はもっとどこかいことがおこりませ。

追加。今年の行路窮死（行き倒れ）が史上最高。としの暮れになって死んでも多少生活が良くなるかと期待つまつた。組合も夜廻りをしました。誰の為のセンター（大阪城）十二月五日号）金は下った。

「合理化」、軍事気象の攻撃は、さらに激しくなつてゐるであらう。取組にストライキ体制を作りあげることが、早急にせまられてゐる。

今、官を仕倒しているのは労働者であり、一つ二つ敗北し、意図を粉砕されてきたのは官側であることを確信し、取組討議を深め、三月、四月期にむけ闘争体制をつくりあげよう。

（闘争気象労働者の会「台風」
十月十五日号より）

何よりも過去一〇年来の学習会、研究会を行ない、また反権力闘争を色々な形で行ない、結果として反代々木になつていった人達が中心になつて、結集が出来ていったといふこと。

一、強制配転闘争、三里塚上映運動の際の他のグループとの共闘の一応の成功から教えられることは、それぞれのグループが、それぞれの立場と位置において主体的に闘っているからこそ、共闘とめたいと思つてゐます。

以上、概括的に四点を我々の職場からの闘いの総括として私なに行つと同時に、七一年においては右四点の総括をふまへながら常に仲間との討議と意志の疎通を行ないながら、問題点を充分に論じてゆくよう努力し、一方、政治的に、

「われわれの闘い、具体に労働強化・合理化攻勢をかけられ、独立資本や行政権力に現実に対抗され、取組を通じて支配られてゐる職場で取組との真向かの闘いを中心と闘つたことから自主的に闘つ仲間の結果、同結得られ、その職場・生涯堂での体的な闘いを基にしてこそ、労働者の闘いが理解出来、地の闘う仲間との交流連帯が生まれてゆき、政治闘争、街頭闘争へ積極的参加もこそから生まれてゐる」と。

以上、概括的に四点を我々の職場からの闘いの総括として私なに行つと同時に、七一年においては右四点の総括をふまへながら常に仲間との討議と意志の疎通を行ないながら、問題点を充分に論じてゆくよう努力し、一方、政治的に、

「われわれの闘い、具体に労働強化・合理化攻勢をかけられ、独立資本や行政権力に現実に対抗され、取組を通じて支配られてゐる職場で取組との真向かの闘いを中心と闘つたことから自主的に闘つ仲間の結果、同結得られ、その職場・生涯堂での体的な闘いを基にしてこそ、労働者の闘いが理解出来、地の闘う仲間との交流連帯が生まれてゆき、政治闘争、街頭闘争へ積極的参加もこそから生まれてゐる」と。

以上、概括的に四点を我々の職場からの闘いの総括として私なに行つと同時に、七一年においては右四点の総括をふまへながら常に仲間との討議と意志の疎通を行ないながら、問題点を充分に論じてゆくよう努力し、一方、政治的に、

「われわれの闘い、具体に労働強化・合理化攻勢をかけられ、独立資本や行政権力に現実に対抗され、取組を通じて支配られてゐる職場で取組との真向か

